

祝 辞



文部科学省初等中等教育局視学官

(併) 特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野 和彦

第68回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会・鳥取大会の開催にあたり、一言御挨拶申し上げます。

はじめに、昨年12月に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方」が諮問され、現在、中央教育審議会初等中等教育分科会教の下で開催されている教育課程企画特別部会において、各学校種又は各教科・科目の改訂の方向性に関する検討に先立ち、諮問された事項に関する基本的な方向性が検討されています。諮問では、顕在化している課題として、主体的に学びに向かうことができている子供が存在していること、現行の学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ばであること、GIGAスクール構想による一人一台端末等の効果的な活用はまだ緒に就いたばかりであることが述べられています。これらの課題は、特別支援学校も同様であり、今後、特別支援教育に関する事項についても検討する予定となっています。

さて、これまで肢体不自由教育においては、GIGAスクール構想以前から、一人一人の障害の状態等に応じた支援機器や補助具等の工夫のもと、子供たちの運動・動作に伴う困難の軽減を図りながら意思の表出を支えるなど、ICT 端末等を活用した素晴らしい実践を積み重ねています。一方で、重複障害のある子供たちも含め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図りながら、一人一台端末を効果的に活用した各教科等の資質・能力の育成を図る指導実践については、まだ道半ばであると認識しています。

このような教育活動の質の向上を図るためには、副校長・教頭が国の動向や学習指導要領を正しく理解し、教育課程を軸としたカリキュラム・マネジメントが重要となります。特に、校内における授業実践を中心とした教師の力量形成や人材育成の側面から、中・長期的な視野をもって、組織的かつ計画的な取組が重要となります。現在、採用後、間もない教師の増加や肢体不自由教育の経験が浅い教師を含め、各学校における指導力の維持・向上、校内の人的体制の在り方などが、全国共通の課題であると認識しています。ぜひ、本研究協議会において、これらの様々な課題に対する研究協議を進めていただければと思います。

結びに、全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会の益々のご発展と、ご参会の皆様にとって充実した大会になることを、心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。